



県病医療ニュース

〒870-8511 大分市大字豊饒476番地 TEL097-546-7111(代表)

※当ニュースへのご意見・ご感想は県病ホームページまたは、1階中央待合ホール備付けのアンケート用紙をご利用ください。

**膠原病・
リウマチ内科**

こうげん

膠原病ってなんですか

私たちは「膠原病ってなんですか」という質問を毎日のように受けています。

ごく簡単にいってしまいますと、**免疫というシステムが自分の体のあちこちを攻撃する病気を膠原病**といいます。

では免疫ってなんでしょう。免疫は疫を免れると書きます。つまり疫（病気）に罹らなくするシステムのことを免疫と称しているわけです。

免疫現象の発見はかなり古く、紀元前5世紀におこったギリシャ・カルタゴ戦争のとき、当時致死率の非常に高かったペストに罹ってそれでも運よく生き延びた兵士が、その後二度とペストに罹患しなかったという事実が「二度なし」という言葉で記録されています。現代でも麻疹や風疹に罹った人は二度と罹りません。これは免疫の働きです。

この様に自分の体を外敵（細菌、ウイルスなど）から守っている免疫ですが、それが、なぜか間違っただけで自分の体を攻撃するためにおこるのが膠原病です。したがって別の言い方では**全身性自己免疫疾患**ともいいます。自己に対して免疫が働いておこる病気という意味です。

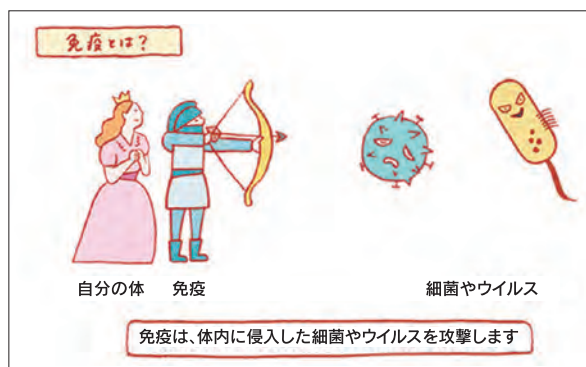
免疫のシステムで最も重要な働きをしているのはリンパ球という白血球の一種です。リンパ球が自己と非自己を見分けて攻撃対象かどうかを決めています。私たちの細胞は全て自分の細胞であるという様々なマーク（自己抗原といいます）を細胞表面に掲げています。そのマークがあれば通常は免疫から攻撃されないのですが、時折、自分のマークにも反応してしまう過激なリンパ球が現れることがあります。これが膠原病の原因の一つとなっています。

なぜこんな過激なリンパ球が出現するのかはいまだに諸説あってわかっていません。膠原病は女性に多いことから女性ホルモンが関係している説や何らかのウイルス感染をきっかけに免疫システムが暴走する説などがあります。

膠原病の中で患者さんが最も多い病気は関節リウマチですが、この関節リウマチひとつとっても患者さんによって症状の軽い人、重い人、関節痛の場所、リウマチ因子の有無など誰ひとりとして全く同じ病像の方はいません。ましてや、他のいろいろな膠原病では症状は非常に多彩です。

膠原病リウマチ内科の特徴は、他の科と違ってある特定の臓器を見るわけではないことにあります。様々な臓器に様々な症状が現れますので、ばらばらの症状から手がかりを集めて、検査をして診断をつけるのが私たちの仕事です。かかりつけ医からいろいろな臓器に異常があつて診断が難しいなどお話がある場合、あちこちの関節が痛む場合、長期にわたる発熱などあれば膠原病リウマチ内科にご相談ください。

(膠原病・リウマチ内科 部長 柴富 和貴)



Palliative Care Team
緩和ケアチーム

緩和ケアチームの役割

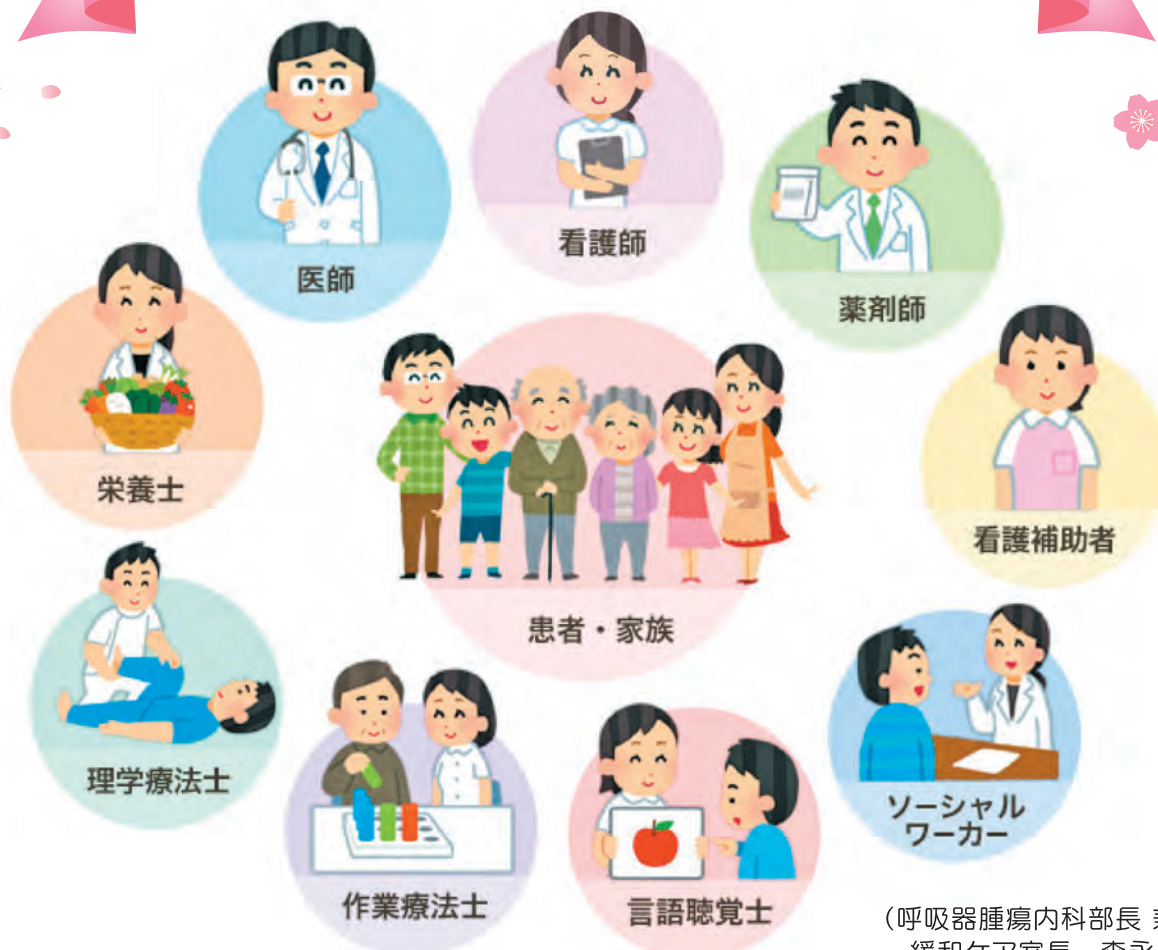
「緩和ケア」と聞くと、がんに伴う痛みを和らげるケアと思われるかもしれませんが、決してそれだけではありません。また、「緩和ケア」は終末期のがん患者さんだけを対象としておこなわれるものでもありません。

「緩和ケア」はがん治療の時期にかかわることなく提供されるべきもので、患者さん本人や御家族ができるだけ「自分らしく」過ごせるように多方面から支援していくことを目標にしています。身体のだらさや心のつらさだけでなく、栄養面や医療費の問題、療養生活上の問題に関しても社会制度の活用を含めて幅広く支援をおこなっていくことが、われわれ緩和ケアチームが担う大事な役割になります。

当院の緩和ケアチームも、痛みの緩和を担当する医師だけではなく、精神科医師や臨床心理士、看護師、薬剤師、社会福祉士、管理栄養士など多くの職種で構成されており、それぞれのメンバーがそれぞれの得意分野で力を発揮し、患者さんや御家族が抱えているさまざまな苦痛や悩みを少しでも軽減できるように努めています。

一人で悩みを抱え込んだりせず、緩和ケアチームを是非活用してください!!

チームのメンバーがそれぞれの専門分野で力を発揮



(呼吸器腫瘍内科部長 兼
緩和ケア室長 森永 亮太郎)